

学部4回生・大学院生のための フルテキスト入手法

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ②

2026.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当（参考調査カウンター）

皆さんこんにちは。

e-learning教材「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」をご覧ください、ありがとうございます。

この講習会では、大阪大学の図書館サービスに焦点を当てて、学术论文のフルテキスト（本文の全文）を入手する方法を解説します。

タイトルには「学部4回生・大学院生のための」とありますが、それ以外の方々にも、大阪大学の図書館サービスについてあらためて知っていただくうえで役に立つ内容となっております。

「卒論・研究きちんとスタート！」 シリーズのラインナップ

①学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ
必要と思われる文献の書誌情報を得る

②学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法
得た書誌情報をもとに実際に論文を入手する



[図書館Webサイト](#)にてe-learning教材を公開中！



2

本シリーズ「卒論・研究きちんとスタート」は2つの講習会から構成されており、それぞれ文献情報を探すプロセスと、実際にその文献を入手するプロセスを扱います。

「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」講習会では、論文の検索を行い、自分にとって必要と思われる文献の書誌情報（論文のタイトル、著者名、雑誌名といった、文献を特定するための情報のこと）を得る方法を学びます。
主に人文・社会科学系の方向けの内容となっています。

現在お読みいただいている「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」講習会では、文献の書誌情報やデータベースでの検索結果をもとにして、論文のフルテキストを入手するために利用できる方法を解説します。

いずれの講習会も、図書館のWebサイトにてe-learning教材を公開中ですので、ぜひご覧ください。

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/research/literacy/>

本講習会の目標

学習目標：

大阪大学の環境（＝阪大の所蔵資料や契約データベース）で論文フルテキスト（＝本文全文）を入手する方法を理解し、必要な論文を入手することができる



3

この講習の目標は、大阪大学の環境で論文フルテキストを入手する方法を理解し、必要な論文を入手できるようになることです。
大阪大学の環境とは、大阪大学で利用可能な資料やデータベース、その他の図書館サービスを指します。

大阪大学の図書館サービスや図書館資源を使いこなして、論文を効率的に入手することができるようになります。

文献データベースの役割

※「日本語文献探索」講習会のスライドから転記

文献データベースの本来の役割

文献情報（書誌情報）の検索・整理

関連文献の発見

PDFや全文閲覧は付加的な機能

PDFや全文へのリンクは、提供できる範囲に限られる

PDFが表示されなくても利用できる場合がある

PDFの有無だけで文献の重要性は判断できない

よくある誤解

PDFが表示されない = 読めない ではない

PDFが表示される = 重要な文献 でもない

先行研究調査の第一段階は、重要な文献を漏れなく見つけること。
そのために、「検索」と「入手」を分けて考えましょう。



4

（このスライドは、「日本語文献探索のキソ」講習会の教材から転記したものです。）

なお、文献の探索と入手は、異なる作業として区別した方が見通しが良くなります。

文献データベースを使うとき、「PDFファイルなどで本文が見られるかどうか」に注目してしまう人が少なくありません。

しかし、文献データベースの本来の役割は本文の提供ではなく、研究テーマに関連する文献の書誌情報の検索や、関連文献の発見にあります。

文献データベースによっては全文へのリンクが表示されますが、あくまでもそれは付加的な機能です。たとえば、代表的な文献データベースである「Scopus」や「Web of Science」には、そもそも文献の本文は収録されていません。これらのデータベースは、本文を提供することではなく、書誌情報や引用情報を提供することを主な目的としたものだからです。

もちろん、文献データベースに本文が登録されていないからといって、その文献が読めないわけではありません。その文献が図書館で所蔵されていたり、文献複写サービスで入手することができたりする場合があります。

先行研究調査でまず大切なのは、重要な文献を漏れなく見つけることです。その

ためには、「文献を検索すること」と「文献を入手すること」を別の段階として考える必要があります。

まずは必要な文献を見つける。その後で入手方法を考える。この順番を意識して、先行研究調査を進めていきましょう。

本講習会の構成

1. 二つの予備知識
2. シチュエーション1：参考文献リストの情報から
3. シチュエーション2：論文データベース検索結果から
4. ILLサービス
5. 自宅や出張先からフルテキストへ
補遺.

5

講習会の構成は、このような形になっています。

参考文献リストの書誌情報をもとに文献の入手を検討する場合と、データベースの検索結果から文献の入手を検討する場合という2つのシチュエーションから、論文フルテキスト入手の実際の手順を紹介していきます。

なお、これら2つのシチュエーションは、「日本語文献探索のキソ」講習会で紹介する、「芋づる式探索」（引用関係をたどって文献を探す方法）と「データベースでの探索」という、文献探索の2つの方法に対応しています。これらの文献探索方法について詳しく知りたい方は、「日本語文献探索のキソ」講習会のe-learning教材もぜひご覧ください。

1.二つの予備知識

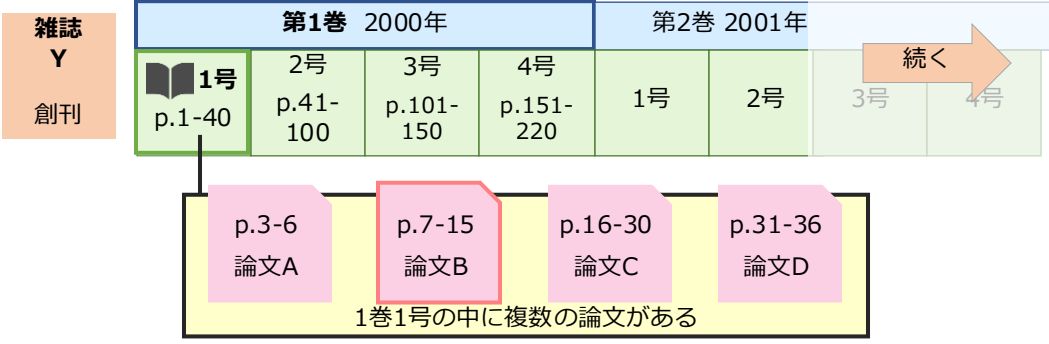


まずは、学術論文を入手する際に前提となる予備知識を2つご紹介します。

予備知識1：雑誌と論文の関係性

雑誌1巻(volume)の中に複数の号(number)があり、1号の中に複数の論文が入っている

論文Bは「雑誌Yの1巻1号のp.7-15に掲載されている論文」と表現できる
=論文の住所のようなもの。入手するときの大きな手掛かりになる



7

1つ目は、雑誌と論文の関係性です。

雑誌1冊、つまりひとつの号の中には、複数の論文が掲載されています。
多くの雑誌では、複数の号が「巻」という単位にまとめられます。巻数は、たい
てい1年ごとに1つ増えていきます。

特定の雑誌1冊を指すときには、「1巻1号」のように、巻と号の2つの数字を組
み合わせて表現します。
(巻のみのものや、号のみのものもあります。)

この図では、『Y』という雑誌を例にとって説明しています。
この雑誌は1年間に4回発行されているため、それぞれに1号から4号までの号数
が割り振られています。また、同じ年の間に発行されたものには同じ巻数が割り
振られます。
それぞれの号の中には複数の論文が収録されており、例えば1巻1号には4つの論
文が掲載されています。
このとき論文Bは、「雑誌Yの1巻1号の7ページから15ページに掲載されている
論文」と言うことができます。
入手したい論文が掲載されている雑誌のタイトルと巻号・ページ数は、その論文
の「住所」にあたる重要な情報ですので、文献の入手を検討する際には必ず控え
ておいてください。

予備知識2：論文入手の3つの手段

①電子ジャーナルをダウンロード

ラク・早い・安い

②大阪大学が所蔵する紙の雑誌をコピー

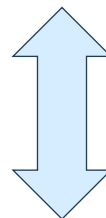
③ 図書館間相互貸借（ILL）サービス

複写の取寄せ、他機関への訪問利用

手間・時間・お金がかかる

★POINT

①→②→③の順番に入手可否を確認しましょう
入手の必要性に応じて、どの手段までとるか考えましょう



8

2つ目は、論文を入手するための手段に関する予備知識です。

論文のフルテキストを入手する際に利用しうる手段は、大きく分けて3つあります。

（ここでは、大阪大学で利用可能な手段を紹介します。国立国会図書館のサービスについては、この資料の「補遺」で扱っています。）

まず、電子ジャーナルからPDFやHTML形式でフルテキストを入手する方法があります。インターネット上で無料でフルテキストを入手することができるため、この方法が最もコストがかからないといえます。文献の入手を検討する際には、まずは入手したい論文が掲載されている雑誌の電子版を利用できないか確認しましょう。

（インターネット上で誰でも読むことができるオープンアクセス雑誌のほか、大阪大学で契約しており、個人IDによる認証を経て読むことができる電子ジャーナルも多数あります。）

電子ジャーナルを利用することができなければ、2番目の手段として、紙の雑誌が大阪大学に所蔵されていないかを確認しましょう。所蔵されていれば、雑誌の現物から読みたい論文をコピーすることができます。

紙の雑誌も所蔵されていない場合は、3番目の手段を検討しましょう。大学図書館は全国的なネットワークを形成しており、このネットワークを通じて他大学の

資料を取り寄せたり、他大学の図書館を訪問したりすることができます。これを図書館間相互貸借（ILL）サービスと呼びます。